

平成30年度 西都銀上学園 学校評価

【自己評価:4段階評価】4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する)

| 評価項目 | 評価の観点 | 方策・指導の手立て | 学校評価 | | | | 関係者評価 | 平均 | 反省・対策 |
|---|--------------------|--|------|------|-----|-----|-------|---|-------|
| | | | 職員 | 児童生徒 | 保護者 | 評議員 | | | |
| 1 基礎学力の 「やる気」 の確実な定着と 学力向上 | 学習指導の工夫・改善 | 児童生徒の学習状況と特性を把握し、個に応じた学習指導の工夫・改善を図ることができたか。 | 3.4 | 3.7 | 3.5 | | | ・対外テストや定期テストの分析を進め、個に応じた指導として、練習プリントや家庭学習の課題を設定し取り組ませたことで、個の学力を伸ばすことにつながった。 ・教科指導において板書計画をもとにした授業展開を構築し「めあて」や「まとめ」をしっかりと位置付けたことで、指導の充実と学力向上のための効果的な授業を展開することができた。 ・シロミックスタイム(朝の活動時間)を活用して、児童生徒の教科等における基礎基本の復習とともに、応用、発展問題等に取り組ませ、児童の学力向上につなぐ取組を行うことができた。 ・少人数における学び合いについても、今後さらに工夫と改善を行う必要がある。 | |
| | 少人数指導の充実と家庭学習の習慣化 | 小中学校の教諭による授業協力など、児童生徒の発達段階に応じた少人数指導の充実を図ると共に、家庭学習の習慣化に努めることができたか。 | 2.9 | 3.4 | 2.9 | | | ・中学校教諭の乗り入れ授業は複式解消につながっているだけでなく、より専門的な指導となっており、児童の学力向上に大いに役立っている。 ・「家庭学習の手引き」を今年度も配付し、学級担任が中心となって保護者と連絡を取りながら、家庭での学習時間や自宅学習ノートの内容など効果的な学習指導を行うことができた。 ・特に山村留學生については、家庭学習の取組が留学終了後も継続できるように、その大切さについての理解を深める指導を継続していく必要がある。 | |
| | 学習環境の充実と読書活動の推進 | 児童生徒の学習意欲を高めるような教室内外の学習環境の整備・充実を努めるとともに、積極的に読書活動を推進することができたか。 | 2.9 | 3.2 | 3.1 | | | ・児童生徒の学習したてや作成したものを教室や廊下に掲示し、教育環境の整備に努めることができた。 ・プレゼンテーションソフトやICT機器を活用した授業を展開したことが、児童生徒の興味関心を高めたり、集中して授業に臨む態度を育てることにつながった。 ・本校の児童生徒は、よく読書に親しんでいる。今年度は読書活動が充実するための図書室のITC整備がなされた。今後これを効果的に活用していきたい。 | |
| 2 豊かな 「心」 の生活 に成 慣 の定着と | 基本的な生活習慣の確立 | 「当たり前のこと3箇条」を中心とした指導を充実させ、基本的な生活習慣を身に付けさせることができたか。基本的な生活習慣の確立について、家庭と協力しながら進めることができたか。 | 3.3 | 3.3 | 3.7 | | | ・当たり前のこと3カ条を中心に常時指導を行ってきたが、整理整頓については大きな個人差がみられる。今後も引き続き粘り強く継続的な指導を行っていく。 ・生活記録や日記、健康観察で基本的な生活習慣の意識付けを行うことができた。 | |
| | 将来について考え温かい人間関係を築く | 児童生徒一人一人が、将来のことを考えるとともに、思いやりや感謝の気持ちを育て、教師と児童生徒あるいは児童生徒相互の心や温かい人間関係の醸成を図ることができたか。 | 3.0 | 3.2 | 3.3 | | | ・児童生徒が将来生きていくための知恵や力となる学び「キャリア教育」を意識して、学習活動が行えるように学校行事等の整備ができた。 ・道徳教育の教科化に向けて研修を深め、年間計画を作成することができた。 ・人権感覚を高めるための丁寧な言葉遣いの指導などは効果を発揮してきているものの、友達同士や異学年の生徒との言葉遣いなどについては今後も継続的に指導していく必要がある。 | |
| | 体験学習と奉仕的活動の推進 | 伝統文化や地域素材を取り入れた体験的学習や奉仕的学習を推進し、豊かな心の育成を図ることができたか。 | 3.3 | 3.7 | 3.9 | | | ・伝統文化教室や銀鏡神楽鑑賞など地域の方の協力の得て、充実した体験活動を行うことができた。 ・環境教室、農業体験学習など豊かな自然を活かした活動を行うことができた。 ・憩いの家訪問や神社の清掃活動などを通して、福祉やボランティアの大切さを学ばせることができた。 ・今後も山村留學実行委員会や山がっこ銀上との連携を深め、体験活動を充実させていきたい。 | |
| 3 健康 「元氣」 の向上 と安全 教育の 推進と | 生活のリズムの確立 | 生活リズムを整えさせ、児童一人一人の健康状態の把握に努めることができたか。 | 2.9 | 3.4 | 3.3 | | | ・日々の健康観察時に「早寝、早起き、朝ご飯」を調べ指導することで、実践の徹底を図ってきた。 ・学校ではノーチャイムで時計を見て行動するようにしている。授業の始業時間を一人一人の児童生徒が意識して守れている。 | |
| | 食に関する指導の充実と心身の健康維持 | 食育の充実と給食指導の充実を努めることができたか。 | 3.2 | 3.6 | 3.3 | | | ・栄養教諭や西都市の野菜生産農家の方を招いた授業などを行い、食育指導の充実を目指してきた。 ・弁当の日の取組を夏休み期間中に行い、全員がつくったものを写真に撮り課題を達成することができた。 | |
| | 安全教育的の充実 | 部活動の充実や教育相談の実施を通して心身の健康を維持することができたか。 | 3.0 | 3.7 | 3.7 | | | ・部活動の取組は本年度は休日を設定し、メリハリのある活動を行うことができるようになっている。 ・年間5回の教育相談は、計画通りに実施でき、児童生徒にとっても貴重な相談時間となっている。 | |
| 4 小中 「一貫」 した 教育の 推進と 連携 | 教師の指導力向上 | 施設一体型の特色を生かした学習指導や生徒指導における小中連携について共通理解共通実践を図るとともに、教師の指導力向上のために校内研修を充実させたか。 | 3.6 | | | | | ・4つのチェックポイント(見届け・定着と習熟・全員参加・発問指示)を意識した授業改善がなされた。 ・多くの教科における乗り入れ授業により小学校の複式授業を解消することができ、個別指導に活かすことができた。また、それが小中の学習内容の系統性を活かした授業を展開することにもつながった。 ・外部組織を活用して研究授業を実施したり、僻地教育研究大会を開催したりしたことで、教師一人一人の課題解決と授業力アップにつながった。 | |
| | 学校教育活動の情報発信(説明責任) | 保護者・地域に向けて、学校のさまざまな教育活動の情報を発信することができたか。 | 3.2 | | 3.1 | | | ・グランドデザインを作成して、学校の取組を教師、保護者、地域に分かりやすく伝えることができた。 ・参観日、学校だより、HPの毎日更新等を通して情報を発信することができた。 ・学校行事と地域行事の融合や精選を今後も進めていきたい。 | |
| | 山村留學実行委員会等との連携協力 | 山村留學実行委員会や保護者(実親、里親)、地域との連携・協力体制をつくることができたか。 | 3.1 | | 3.4 | | | ・地域の各団体との協力体制を今後もしっかりと築きながら、スムーズな学校運営を進めていきたい。 ・今後の学校の課題(児童生徒数の確保等)についても、対策を話合っていく必要がある。 | |

